

臨床画像解析学

[講義] 第2学年～第3学年 前期 選択 1単位

《担当者名》柳川 芳毅 (薬学部) 泉 剛 (薬学部) 町田 拓自 (薬学部)
鹿内 浩樹 (薬学部) 水野 夏実 (薬学部)

【概要】

臨床の様々な場面において、画像情報が果たす役割はますます増加し、その内容も極めて多様化している。また画像情報の進歩は、疾患の診断、治療、予後の判定など患者に多くの福音をもたらした。本講では、代表的な8疾患を中心に、日常頻繁に使用されている画像検査の観点から、その臨床的意義並びに基本的な考え方などについて学ぶとともに、一連の疾患診断プロセスと病態との関係を総合的に学修する。

【学修目標】

日常良く遭遇する代表的な疾患について、診断に至る過程で使用される画像診断を中心に学修し、その病因・病態を併せて理解し、薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を説明できる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

【実務経験】

柳川芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）、町田拓自（薬剤師）、鹿内浩樹（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、獣医師、薬剤師としての実務経験や、創薬研究に関する知識をもとに、画像情報を用いた様々な疾患の診断、病状把握の実際についての講義を行う。